

目次

巻頭言 / 亀山郁夫——2

特集:

ヨーロッパの文化と文学

- ドン・キホーテ、あるいは人生という敗北 / ミラン・クンデラ 西永良成訳——4
セルバンテスのあとを辿るブヴァールとペキュシエ / ファン・ゴイティソーロ 西永良成訳——9
文学の機能 / ウンベルト・エーコ 和田忠彦訳・解説——16
セルバンテスとボルヘスの合い言葉 ——「不信の中断」(コールリッジ) / 牛島信明——27
ロマン主義の神話と小説の真実 ——夏目漱石『行人』論 / 西永良成——42
公衆の誕生 ——公共的世界のアルケオロジーのために / 水林章——60
〈クレオール〉の多義性 / 西谷修——98
モリエールは実はコルネイユか? —ピエール・ルイスと「モリエール=コルネイユ」論争 / 沓掛良彦——109
拒否からの出発 ——デュラス、そして太宰治についてひとことふたこと / 蕭幸君——119

特別講演

現代詩 その自由とエロス / 松浦寿輝——126

寄稿1

- 仔羊物語 われより深く死なんとする仔羊の眸に遭えるなり / 奴田原睦明——142
猿の惑星にも学問はあるか ——通俗研究 錯乱狂気 —— / 三枝壽勝——149

書評

- 『アフリカン・アメリカンの文学』 荒このみ 平凡社 / 川口健一——159
『ハイナー・ミュラー・マシーン』 谷川道子 未来社 / 亀山郁夫——160
『侵入者 いま<生命>はどこに?』 西谷修 以文社 / 吉本秀之——163
『ヴェネツィア 水の夢』 和田忠彦 筑摩書房 / 西永良成——165
『モラエスの旅 ポルトガル文人外交官の生涯』 岡村多希子 彩流社 / 中山和芳——167
『三枝教授の韓国文学研究』 三枝壽勝 ソウル:ベトゥルブック / 巖基珠——168
『文酒閑話』 沓掛良彦 平凡社
『詩女神の娘たち——女性詩人、十七の肖像』 沓掛良彦 未知谷 / 柴田勝二——169

エクトール・ピアンシオッティ

『夜が昼に語ること』 西永良成訳 国際言語文化振興財団 / 杉浦勉——171

アントニオ・グラムシ

『知識人と権力 ——歴史的・地政学的考察』 上村忠男編訳 みすず書房
『国民革命幻想 ——デ・サンクティスからグラムシへ』 上村忠男編訳 未来社 / 姜玉楚——173

ボリス・グロイス

『全体芸術様式スターリン』 亀山郁夫・古賀義顕訳 現代思潮新社 / 大須賀史和——177

タック・ラム

『農園の日差し』 川口健一編訳 大同生命国際文化基金 / 荒このみ——180

M.K. ガンディー

『ガンディー 自叙伝——真理へと近づくさまざまな実験——』 田中敏雄訳 平凡社東洋文庫 / 菊池陽子——182

寄稿2

ANAGNOSIS DE EL TESTIMONIO DE YARFOZ
DE SÁNCHEZ FERLOSIO CALDERÓN VÍCTOR——(-i)